

## 会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成19年度 第10回
開催日時	平成19年9月12日（水曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎 1階102会議室
出席者	委員：青木委員、赤石委員、池田委員、虎頭委員、西山委員、蚊野委員、荒井委員、富田委員、高木委員、角田委員、中村委員、北條委員、渡辺委員 事務局：三芳課長、岩田係長、藤原主事、インテージ2名
議題	1 第9回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認 2 平成18年度男女平等参画推進計画各課実績評価についての最終確認 3 西東京市の現況について 4 その他
会議資料の名称	資料No.1 第9回西東京市男女平等参画推進委員会会議録 資料No.2 西東京市男女平等参画推進計画実績報告書（平成18年度） 資料No.3 評価グラフ 資料No.4 実績評価の詳細版 資料No.5 西東京市の現況 基礎データ
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>委員長： 第10回の男女平等参画推進委員会を開催する。</p> <p>事務局： 9月4日に女性センターの開設準備委員会を設立した。来年4月のオープンに向けて必要なことや開設後の事業について検討いただく。</p> <p>委員長： 女性センターの動きについて、質問はあるか。</p> <p><u>1 第9回西東京市男女平等参画推進委員会会議録の確認</u></p> <p>委員長： 前回の会議録の確認に入る。修正はあるか。</p>	

## 2 平成18年度男女平等参画推進計画各課実績評価についての最終確認

委員長：

では、実績評価の最終確認に入る。

委員：

「はじめに」の上から2行目、「これまでの3年間の積み重ね」の部分が気になる。2年間の積み重ねで3年目を迎えた。「これまでの積み重ね」でいいのではないか。

委員長：

「これまでの積み重ねもあって」とする。他の箇所ではいかかですか。

委員：

2ページの「16事業がB以下の評価を受けている」と本文にあるが、表では計算すると31になるのではないか。数が合わない。

委員長：

今年の事業数が文章と合わないこと、青木委員に合わせていただく。

委員：

最重要課題の1の「さらに」という言葉が引っかかる。  
女性センターはまだ開設していない。「さらに」は「今まで以上に」の意味合いなので、ないほうがよい。

委員：

6ページに「職員意識調査」とあるが、いつ実施されるのか。

委員：

スケジュール表に入っている。

事務局：

市民意識調査から職員意識調査に合わない設問を削除し、実施する予定でいる。削除する部分について、確認ができ次第実施できる状態だ。

委員：

了解した。

委員長：

学びの事業の数を確認し、事実即して訂正する。はじめにの「3年間」を取る、「さらに」を取ることで、承認されたということによるしいか。

一同：

よい。

委員長：

実績評価は中間報告として市長に渡すことになる。次回報告する。

### 3 西東京市の現況について

委員長：

次の議題に入る。西東京市の現況について。

事務局：

西東京市の現況として、関連する基本データの説明。

委員長：

質問はあるか。

委員：

8ページの全国の労働率、東京都はずっと全国平均より低い。本文と合わないのではないか。

事務局：

幅が目立つということで、40～59歳と書いた。

委員：

都会の方が高そうな気がするのだが。

委員：

福井県は高い。三世同居で、女性の就業率が高い。実は大都市では専業主婦率が高く、M字型で労働力率が低いと言われている。

委員：

富山県や東北の山形県や九州佐賀県でも比較的、就業率が高い。

委員：

地方の方が完全に核家族化しておらず、子供の面倒をみるおじいちゃんやおばあちゃんが出て、女性が出やすいのか。

委員：

逆に言えば、女性が働きながら仕事も家事もダブルシフトでやっていると言える。

委員：

通勤時間が短いという事情があるのかもしれない。

委員：

兼業農家とか農業の担い手も女性である。

委員：

ジェンダー関連の情報を地図化した本が出ているが、みると結構おもしろい。

委員：

地図を描いていただいたが、判例がなくわかりづらい。

事務局：

今回、判例は用意していなかった。申し訳ない。

委員：

このデータは我々だけが見るのか。

委員長：

意識調査の際に使えるのであれば、使ってほしい。

委員：

折れ線グラフに山や丸などをつけて、どれの線なのかわかりやすくしてほしい。

委員：

審議会委員のところだが、同じ人が重なって引き受けることがかなりある。西東京市ではそれはないが、自治体では重任が多い。その辺を調べてほしい。

委員：

ジェンダー統計のワークショップに出た際に聞いた。女性の労働力率に男性の労働力率のグラフを重ねると明らかな差がでる。ジェンダー統計の配慮があった方が、なぜ女性はこれだけM字になっているのかわかりやすい。

女性就業者の選択肢としては、専業主婦はどこに入るのか。

女性の就業状況の選択肢からわかるのであれば、見たい。

委員：

昼間の人口が高いということは、パート・アルバイトが多いのかと思った。

家事のみで家にいる人がどれくらいいるか知りたい。

増えた人はほとんどパート・アルバイト。専業主婦は増えたのか減ったのか。

委員：

外国籍の方が増えているが、国籍はわかるのか。

西東京市に暮らしているとアフリカ系の方もいらっしゃるし、多言語の情報提供の際に考えなくてはいけないこともあると思う。

委員：

DV被害の女性に対する情報提供で、多言語の情報がなく、困っているとよく聞く。

外国人の国籍もわかれば出してほしい。

委員長：

女性の労働力の実態として、全国の動向も押さえてほしい。

委員：

就業者で、生産年齢は15歳～64歳になっている。高齢で就労されている女性もたくさん出てきている。従来通りに決めるのはどうか。最後まで社会に参画していたい人いると思う。

委員長：

65歳以上の就労状況も見られれば、男女別にお願いしたい。

委員：

西東京市の現況として、このプランの中でも相談事業は大きくなる。今までの西東京市の女性相談の件数などを出すといいのではないか。実績評価の報告に出ている数値を入れてほしい。

委員：

労働力率の定義は何か。就労率とは違うのか。

委員：

労働力率では働く意思のある人も入ってくる。

委員：

就労の実数と比較するとだいぶ差はあるのか。

委員：

労働力人口というものがある。就労者及び完全失業者、それを合わせたものを労働力人口という。労働力人口の割合が労働力率である。

委員長：

失業者はわかるが、これから働きたい人の統計はどこから持ってくるのか。

委員：

ハローワークの統計である。

委員：

完全失業者の定義はどうなのか。

M字型の谷のところ、**「潜在的失業率が高い」**というものをよく見る。

委員：

潜在失業者は載っていないが、労働力人口 = 「就業者」 + 「完全失業者」。完全失業者は、仕事がない、仕事があればすぐにつくことができる、求職活動をしていた、という3つの条件を満たす人達である。潜在的失業者は完全失業者の中に入っていることに

なる。

委員：

実際の就労者と足されている人がいるのであれば、別々に数字を出してほしい。

委員長：

就業率と労働力率の違い。潜在的な就労希望者がどこまで入るのが難しい。

委員：

6ページで、核家族世帯のほかの「その他の世帯」はすべてが入るのか。

事務局：

三世帯や単身世帯も入る。

委員：

子育てをしている世帯の世帯数がどのようになっているかをみたい。  
母子家庭のうち、若い子供を抱えている割合のデータがあればみたい。

事務局：

そのあたりは、国勢調査の第三次基本集計の市町村別の集計にある。東京都版はまだ出ていない。親子の同居状況や就業上の地位もその集計に含まれる。

委員：

有配偶でない女性の就業者の就労率もほしい。

事務局：

無配偶女性のデータはない。即答できないので調べる。

委員長：

意識調査の結果が出てきた際に関連付けなどしていきたい。  
議題の3は以上。他はないか。

#### 4 その他

委員：

市のホームページに平成19年度行政評価結果一覧というものが出ている。115事業を見直すと各部各課の見直しが書かれている。生活環境部の中の「情報誌エガールの作成」と「フォーラム事業」が抜本的見直しとの評価が出ている。全庁的な行革本部の評価であり、意見募集もしている。詳しく見ると、事業評価が出ていた。何らかのアクションを起こした方がいいのか。事務局の意見を伺いたい。

委員長：

主な見直し理由は何か。

委員：

エガールの作成では、代替・類似サービスの有無で「有」となっている。国では男女平等参画推進本部ニュースを出しており、パンフレット台に配置している。フォーラムは東京都でフォーラムを開催しているのでは代替できるのではないかということだ。

エガール作成・配布の経費では、1部340円のコストがかかっている。フォーラムは年代が30～40歳代対象となっているが、根拠が乏しく、参加者が思ったより少ない。その他、二次評価がある。市民としてはドキッとした。何とか続けてほしい。

事務局：

行政評価では、抜本の見直しも改善見直しもあり、休止・廃止もある。

生活文化課では5つの事業が対象になった。対象事業は、別の部署の管理職が二次評価をする仕組みである。

形や数字に表れない部分をどう評価するか。エガールは1500万円かかっているが、どう読まれてどのように評価されたか。

合併後すでに予算枠は与えられていた。当時、8万世帯すべてに配ろうとすると1回しか配布できない。議論した結果、今の3回、今の発行部数となった。

当初は中学校にも配布していたが、内部で欠員が生じ、足回りが悪くなった。

フォーラムは一発もののイベントであり、一回でどれだけ意識が高まるのか。ボランティアの裾野がどのように広がり、地域の男女共同参画につながったと示すかが難しい。実際の市民参加・協働になかなか人が集まらない。議会ではPRの仕方が悪いとたたかれるだけ。

パブリックコメントは28日が締め切りだが、ご意見をお寄せいただきたい。

学識も含めて行革の委員会で最終的なまとめができる。部数や参加人数だけで評価されるとつらい、と内部で訴えても限界がある。

委員：

ヒントをいただいた。数値化できないのが困るということであれば、素朴な感想を寄せたらいかかがか。

委員長：

実績評価では、エガール、フォーラムにA・Bの評価がついている。行政評価はシビアに出てくるので、この委員会の評価の甘さがでてくるのかもしれない。

委員：

女性センターができ、センターで行うイベント、「女性センターまつり」をボランティアでやる場合、そのような予算も減らされていくことにつながるのか。

事務局：

センターまつりなどは今までとは抜本改革になる。形を変えて運動を広げるという工夫はあると思う。

委員：

新しい形で市民としての声を出さなければと思う。

事務局：

1部あたりにすると高いからやめてしまえとなると手段がなくなる。市報に囲みで記事を載せるのとは違う。

委員：

国の冊子と地域密着の冊子。国の動向が出ているものと地域のロールモデルが出ているのではだいぶ違う。評価する方はそのことは見られない。これを読んで気づいた人がいる、感じた人がいるなど、波及還元効果を示すことが必要だと感じた。非常によい内容の冊子だと思うが、機動力を持って配らないと認知度も低い。一般的に認知が高くないのではないか。

評価する人に代替できないことを伝えていってほしい。

事務局：

情報誌にアンケートをつけているが、アンケートは返ってこない。数字として上に出せない。数字でどのように出せるかが重要である。

委員：

それは郵送料がいるのか。50円切手を貼ってまでは厳しい。

委員長：

市民も横着。なくなると聞くと出すかもしれない。

事務局：

はさみ込みは落ちてしまう。

委員：

切り取ると無料で送れる（料金着払い）のアンケート用紙がある。

委員：

プレゼントがあるなど。

委員：

何もなく、50円貼って出すのはどうか。

委員長：

狙われているのがわかっていれば、手元に数値を作っておいたのだが。

事務局：

一昨年、ある学校で配布し、1クラス分もらったことがある。

委員：

公民館等の講座の受講者に配布し、回収するという方法はどうか。あらゆる手段をと

ったほうがよい。

委員：

このような情報をどんどん出してほしい。

委員：

予算の情報も出てくるか。

事務局：

10月20日頃予算編成方針が出る予定だ。

委員長：

今までに出された意見、国の冊子やフォーラムに代替できるという意見に対し、地域の方が登場する冊子・フォーラムの意義を強調していただき、見直しの際に次の新しい企画・要望を出していけるとよい。

委員：

女性センターができた際に、女性センターの活動の予算の中にはその予算は入っていないのか。今までのものに固執してもいけないと思う。女性センターの活用の中で広げていけばとりやすいのではないか。

委員長：

やる際には数値を残すという戦略も必要である。

委員：

東京都女性センターのときもデータがなかった。

事務局：

開設準備委員会で検討いただく際に、情報誌とフォーラムの議論を提案したい。

委員長：

その他を終わりにする。次回は10月10日に開催する。これで終わらせていただく。